

令和3年度 秋の交通労働災害防止運動実施要綱

神戸西労働基準監督署

主唱

厚生労働省兵庫労働局・県下各労働基準監督署 協賛

国土交通省神戸運輸監理部兵庫陸運部
兵庫県
兵庫県警察
一般社団法人兵庫労働基準連合会
陸上貨物運送事業労働災害防止協会兵庫県支部
公益社団法人日本新聞販売協会近畿地区本部

趣旨

兵庫県での「秋の交通労働災害防止運動」は、秋の全国交通安全運動期間を含む9月を実施月間とし、「事業者はもとより行政、業種別労働災害防止団体、業界団体等の参加のもと、関係者が一丸となって県下全域での集中的かつ効果的な交通労働災害防止活動を推進すること」を目的に、平成18年から実施し、今年で16回目を迎えます。

この間、兵庫県内の交通労働災害による死亡者数は、増減を繰り返しながらも長期的には減少傾向を示し、平成21年に過去最少の4人まで減少したものの、その後は、死亡者数全体の約2割を占める状況で推移し、令和2年は5人となりました。

また、交通労働災害による休業4日以上之死傷者数は、長期的には毎年約360人前後で推移し、減少傾向はみられない状況にあります。

このため、今年も秋の交通労働災害防止運動実施期間中の交通労働災害による死亡災害ゼロを目指し、それぞれの職場で交通労働災害防止活動の着実な実行を図ることとします。

対象業種

兵庫県下の全業種を対象とし、特に道路貨物運送業、新聞販売業、社会福祉施設を重点業種とする。

目標

交通労働災害の防止
(交通労働災害による死亡災害ゼロを目指す。)

実施事項

全業種共通事項

- 1 「交通労働災害防止のためのガイドライン」に基づく対策の徹底
- (1) 交通労働災害防止に関係する管理者(安全管理者、運行管理者等)を選任するとともに、管理者に対し必要な教育・研修を実施し、交通労働災害防止のための安全管理体制を確立する。
- (2) 安全衛生方針の表明、目標の設定、計画の作成・実施・評価・改善を行う。
- (3) 交通労働災害防止に関する事項について安全委員会等において調査審議を行う。
- (4) 適正な労働時間等の管理及び走行管理を実施する。
- (5) 適正な走行計画を作成し、運転業務従事者に適切な指示を行う。
- (6) 乗務開始前点呼等を実施し、その結果に基づく措置を適切に実施する。
- (7) 交通労働災害防止のための雇入れ時及び日常の教育を行う。
- (8) 健康診断を実施し、その結果に基づいて適切な事後措置(就業場所の変更、作業の転換、労働時間の短縮、深夜業回数の減少等)を行う。
- (9) 交通労働災害防止に係る交通安全情報マップの作成、ポスターや標語の掲示等交通安全についての意識の高揚を図る。
- (10) 異常気象等への対応、自動車等の走行前点検等、必要な措置を行う。
- 2 積雪や路面凍結の情報に注意し、季節に応じた対策を講じる。
- 3 他車両からの視認性向上のため、早朝、夕方早めの点灯を励行する。

新聞販売業

- 1 「全業種共通事項」(1)(2)(3)は事業場の規模に応じて実施
- 2 適正な配達量とし、かつ、労働者が無理は配達をしないよう点検する。
- 3 高齢者について、十分に配慮する。(被災者の多くを高齢者が占める。)
- 4 次の事項を推進する。
 - (1) 走行経路を調査し、「安全走行計画」を作成する。
 - (2) 交通労働災害の「危険予知訓練」を行う。
 - (3) 配達員の健康状態を健康診断等により把握し、その結果に基づいて適切な指示を行う。
 - (4) 「配達時における安全作業のポイント7」を励行させる。

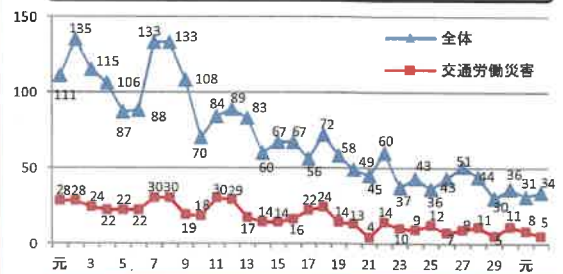
新型コロナウイルス感染症の状況等に応じた運動の実施

主唱者、協賛者等は、本運動の実施に当たって、今後の新型コロナウイルス感染症等の状況や、これに伴う取組事業者等の交通行動の変化等を注視しつつ、国民の命と健康を守ることを第一に、管内の実情に応じた運動を展開し、交通労働災害防止の意識の高揚に努めるものとする。

実施期間

令和3年9月1日～9月30日

兵庫県内死亡災害発生状況(平成元年～令和2年)



道路貨物運送業

- 1 「全業種共通事項」
- 2 次の事項を推進する。
 - (1) リスクアセスメント(危険有害性の調査及び措置の実施)に取り組む。
 - (2) 陸運業における労働安全衛生マネジメントシステムの導入を促進する。

社会福祉施設

- 1 「全業種共通事項」
- 2 リスクアセスメント(危険有害性の調査及び措置の実施)に取り組む。
- 3 危険予知による運転を励行し、急の付く動作や速度超過に対する注意喚起を行う。

配達時における安全作業のポイント7

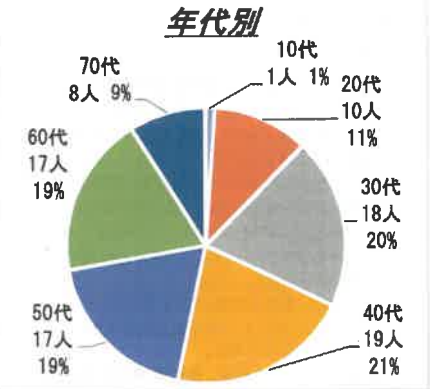
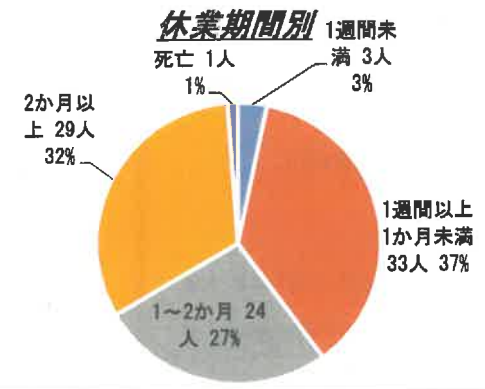
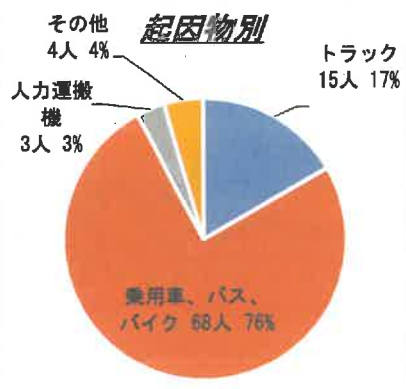
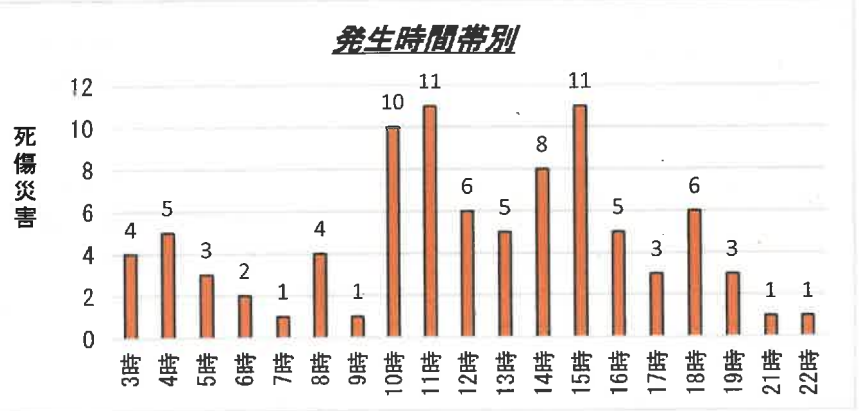
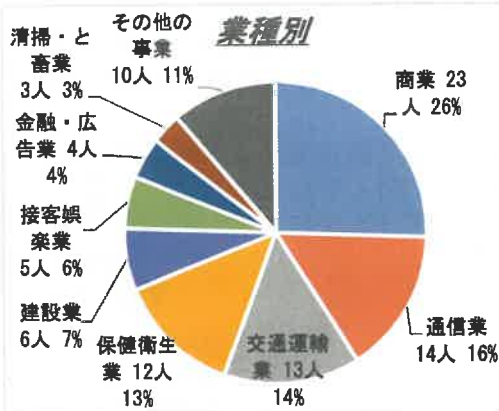
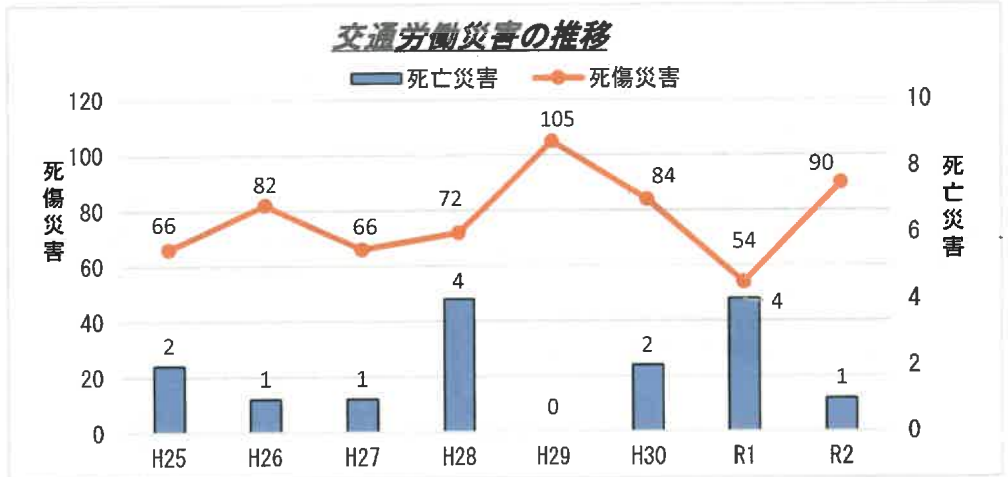
- 1 出発前にライト、ウインカー、ストップランプ、ブレーキなどを点検しましょう。
- 2 バイクを運転するときは、反射ベストを着用し、必ずヘルメットをかぶり、「あごひも」を締めましょう。
- 3 危険な箇所や、過去にヒヤリとしたり、ハットしたりした場所を書き込んだ、交通安全マップを作り、活用しましょう。(他の作業者への貴重な情報となります。)
- 4 見通しの悪い交差点、広い道路に出る時、また、踏切では、必ず一時停止をし、目で見て声を出して、「右ヨシ！左ヨシ！」と安全確認をしましょう。
- 5 早朝の交差点などは、交差点に近づく他の車の動きをみるため、信号が青でも徐行して、必ず左右を確認しましょう。
- 6 雨の日や強風などの悪天候のときは、白線やマンホールなどの滑りやすい場所を避けて運転しましょう。
- 7 急ぐあまり、階段の2段とびは止めましょう。また、足下の安全を十分確認しましょう。

令和2年 交通労働災害発生状況

神戸西労働基準監督署

令和2年の休業4日以上の労働災害は926件、うち死亡災害は5件発生しています。そのうち交通労働災害は90件と全体の9.7%、死亡災害は1件と全体の20%を占めています。

交通労働災害による死傷者数は近年、増減を繰り返しており、平成29年以降は2年連続で減少したものの、令和2件は増加に転じたものです。



令和2年の交通労働災害は、業種別では商業（23人）で最も多く発生しており、次いで通信業（14人）、交通運輸業（13人）、保健衛生業（12人）の順で多く発生しています。発生時間帯は11時台と15時台（各11件）で最も多く発生しています。起因物別では乗用車、バス、バイクが（68人）最も多く、次いでトラック（15人）で多く発生しており、合わせて全体の93%を占めています。年代別では40歳代が最も多く（19人）次いで30歳代（18人）で多く発生しています。交通労働災害による休業期間は1か月以上が全体の60%を占めています。

令和2年 死亡災害発生状況一覧表

発生月	業種	規模	事故の型	発生状況
			起因物	
11月	警備業	10~49人	交通事故	片側1車線、対面通行の自動車専用道路で片側車線を規制し、交互通行にして側溝付近の草刈り作業をしていた箇所で交通整理をしていた被災者が、通行車両にはねられたもの。
			乗用車	